

## インタビュー

発送代行業務などを手掛けるフクシン（埼玉県朝霞市、048・462・7100）は、発送業務より派生した三つの事業を柱に着実に成長を遂げている。現在、従業員はパートを含め135人に、



13点封入可能なメールロボ



出荷する商品

第1に、顧客が伝えた情報を形にする。第2に、安く、早く、正確で安全な作業。第3は企画提案だ。

特に、書留の項目の実現がもっとも困難であった。創業当時の発送代行業務は手作業であり、生産性

低く、顧客が伝えた情報を形にする。第2に、安く、早く、正確で安全な作業。第3は企画提案だ。

時、半自動のターンテーブル式のバレスト機を4台導入し、現在も使用している。

多様な機械をそろえていた。また、個人情報保護を保障するプライバシーマークを取得している。

### 成長の軌跡

当社は昭和61年にダイレクトマーケティングの発送代行会社として創業した。当時、平塚の民家が事務所であったが、福岡初代会長とともに二人三脚で業績の向上に力を尽くし、着実な発展を遂



フクシン 代表取締役社長 福岡 道徳氏

## フクシン 発送業務軸に業績拡大 「包装」着目し、環境保全推進

げることができた。もともと、発送代行が業務の8割以上を占めていたが、先行き不透明な経済環境を乗り切るため事業の柱を三つへと拡大。関連性のあるマーケティングやコンピュータ情報処理などの事業を育成した。

率をほぼ均等に配分することに成功。不況に強い企業へと生まれ変わった。新たに二つの事業を育成できた要因は、顧客の信頼を得ることができたから

に「包装」に着目し、環境保全推進

を上げるため機械化を推進する必要があったが、容易ではな

紙管100のストレッチフィルムの在庫

バレスト機の稼働風景

また、ストレッチフィルムなどの包装は役目を終えれば廃棄物となる。1日100バレット分出荷すると、膨大なゴミの山となるため削減方法を模索していた。

機械化により生産性を引き上げ顧客満足度を向上を図ってきた。今、多角的に効率化を推進するとともに、関連するサービス

## 外装関連（段ボール・MH・物流システム）